

県民の森の植物 72 タラノキ (ウコギ科 タラノキ属)

「山菜の王様」として人気が高いタラノキ。春に芽吹く新芽が「タラの芽」として食されています。地方によって様々な呼び名があり、このあたりでは「タラボ」と呼ばれています。

幹は鋭い棘に覆われていて、刺さるととても痛いです。加えて成長した葉の付け根にも鋭い棘があり、凶器のようです。しかし棘は、若いうちはフニャフニャしていて柔らかく、タラノキに痛い目に遭わされた人は、その手触りにビックリします。葉っぱは、奇数二回羽状複葉。小葉は5～10cmほどの卵型ですが、全体の長さは50cm以上あり、これが1枚の葉っぱなのかと驚嘆します。秋には赤や橙色に美しく色付きます。

花は夏、幹の先端に50cmほどの長い花序が出来て、薄緑色の小さな花を多数咲かせます。そのあとに球形の小さな果実が出来、熟すと黒紫色になります。人間の食用にはならないですが、ツグミなど鳥たちのご馳走になります。枝先に実を付けた様子は線香花火のような美しいシルエットです。

冬芽は棘がありますがユーモラスで、森の中でとても目立ちます。痛い目にあうことが多いのに、会おうとつい声をかけてしまうタラノキ。園内ではAコースや七滝登山道で見られます。



【若い刺】 6/10



【冬芽】 3/19



【新芽】 4/27



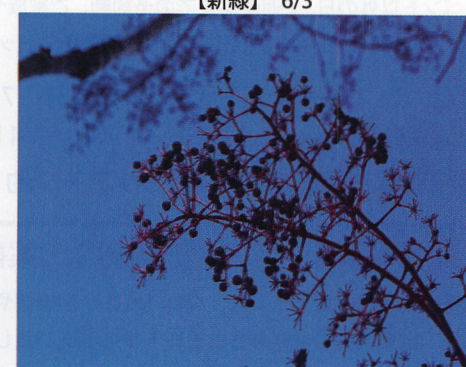
【新緑】 6/3



【花】 8/17



【紅葉】 10/1 (これで1枚の葉っぱです)



【実】 10/26